

た。

「何て言つて居るのだから知りたい。」とフロレンスの顔を熟と見て「海がですよ、何を始終くあのやうに言ひ續けて居るのでせう。」

「たい波の音なのよ」とフロレンスが教へた。

「え、え、でも波が始終何か言つて居る。始終同じ事を……あの向ふは何處？」とポウルは起き上つて、水平線の處をじつと見詰めた。

「他處の國があるの。」

とフロレンスが言つても、その意味ではない、もつとく彼方の事を訊くのだ、と、ポウルは言つた。

其後は、屢々二人の話の最中にも、ポウルは波が何をいつてゐるのだらうと思つては、話を途切らせて、伸び上つては、遠い／＼、目に見えぬあなたを見てゐた。(續)

注意すべき子供の胃腸病

醫學士 石 塚 保 吉

△子供の胃腸の病氣は最恐ろしい

夏は胃腸の病氣が多い。大人も子供も胃腸をこわすのが多くて。しかもなか／＼重いのがあつて、之れが爲めに斃れる人も少くない。一般に世間の人、胃腸病の恐るべき事、殊に小兒のそれの甚だ

恐るべきものである事をよく了解して居ないやうです。が小兒の病氣中、胃腸の病氣は最も恐ろしいものであります。なせ恐ろしいかと云へば、此病氣が一番死亡率が高いからである。十中の七八と云ふ高度を示して居ります。世間の人が、なせ此恐ろしい病氣を恐ろしいと思はないかと云ふと、大

人を標準にして考へるからでせう。大人の胃腸病は、殆んど注意せられないほどに軽く見られて居ります。それは醫者も患者もあまり重大視しません。子供のも之れと同じに考へて居るやうです。二三日前から下痢しましたが、下痢だから打捨て、おいたらこんな事になりましたなど、云つて子供の重病患者をかつぎ込まれるのが多くあります。

子供の胃腸病は決して大人と同一視する事は出来ません。直に中毒症を起して、脳を侵し、瞬間に其生命を奪ふといふ危険な性質をもつて居るのです。今一つ困難な事は、治療の方法が非常にむづかしいのです、ほしがる食べものを制限しなければならぬのです。此危険と困難の爲めに、或は突然に斃れたり、或は非常の長びいてなかくなほりにくかつたりするのです。此恐るべき病氣を恐しがらないで粗略にした爲めに助かるべきものを助けなかつたり、簡單になほるものを非常に

悪くしたりする事があります。

△下痢どめ薬の害

故に下痢位といふやうに軽々しく考へないで、なるべく早く醫者に見せて適當の手あてをするがよい。殊に注意すべきは、下痢に對して下痢どめを用ゐる事です、これは甚だしい危険です。これについては昔の學者と今の學者と説が正反對になつて居ります。昔の學者は下痢そのものを病氣と考へた。下痢さへとめれば病氣はなほると思つて、さまざまな下痢どめを用ゐたのです。

今の學者は、下痢は病氣をなほす爲めに、自然が人類にそなへつけた一つの大切な作用であると説いて居る。即ち體內にある毒物を排泄する作用なのです。これは自然の特別の恵みであるから感謝しなければなりません。之を敵視するなどはとんでもない間違ひです。

下痢があつたら、むしろ下劑をのんで毒物の排

泄を助けた方がよろしい。その薬を用ゐると、どの場合にも結果は屹度わるい。型におしたやうにわるくなるにきまつて居ります。

△下痢に牛乳は禁物

今一つ眞違つた考へは、下痢の時に牛乳を用ゐる事です。之れも世間でよく實行せられて居るやうですが、下痢の際牛乳を用ゐる事は有害です、却て病勢を上げしくします。之も昔の人は胃腸病は堅い固形物を食した崇であると考へた。故に柔かい流動物をとれば必ずなほると思つたのです。大人には多少よいかもしれないが、子供の場合には全く正反對である。牛乳をのませるとますます病氣がひどくなる。牛乳は細菌の繁殖を助けるからです。該病にかゝつた子供に牛乳をのませる事は効果のないのみならず、却て有害です。それが爲めに病氣が重つた實例も少くありません。

△胃腸病の原因

此頃の病氣の原因になるものは、氷水が多いやうです。就中氷あづきがよくないやうです。水密糖、ばな、枇杷なども胃腸病の原因になりやすい。間接には、寝びえ、水いぢりなどです。氷あづきなどは氷そのものがよくないのにさづきは腐敗しやすいから、暑さで弱つて居る腸胃が痛められるのです。

△家庭の手當

下痢の場合には直に醫者に見せるのは云ふまでもない事ですが、家庭に於てもし出来るならば、第一に灌腸をやるのです。それから食事をやめてしまつて、おも湯とか葛湯またはそつぷなどの如きうすいものをほんの口をぬらすだけ位に與へるがよい。

胃腸病には減食もしくは饑餓療法が最適當にし

て最有効です、多くの人は、下痢をすると立派な肉でも落ちてゆくやうに考へて、衰弱するといふので、食欲のないものに無理に牛乳をやるとか、その他の食物を強ひるとかするやうですが、これは根本的に眞違つた考へです。それよりは二三日位絶食でもさせると輕いのなら直になほつてしまひます。

△饑餓療法

饑餓療法は最大切な療法であります。此療法は世間の人にひどく恐れられて居て、しきりに反對せられて居りますが、少しも恐ろしい事ではありません。それが爲めに衰弱するからと云て之を忌避すると、衰弱を恐れて死を恐れないといふやうな結果になる。該病は食物に關係する場所がわるいのであるから、食物を制限してなほしてゆくより外に工夫はないのであります。食物に制裁を加へないで、即ち原因をふせがないでにおいて結果を

おさめやうと云のは、到底不可能の事でありませう。これが爲めに一時衰弱してもそれはなほる爲めにする衰弱です。食^がべても〜衰弱して遂に挽回すべからざる運命にたち到るよりは遙によい。

△藥物療法よりも攝生療法

世の人は藥物療法に絶對の信任をおいて居るやうであるが、それよりも攝生療法の今一層大切な事を了解してもらいたい。むやみに薬々と云つて、あの薬を試みたが、此薬を飲んで見たが一向に効果がないなど云つて、矢鱈に薬を重要視する傾向があるやうです。今日の學理の上から云へば攝生療法の方が藥物療法よりはずっと大切なので、攝生療法さへ適當にやれば病氣は自然になほるものでなのです。どうか一般にその考になつてもらいたいものである。さうすれば過も少ないし、醫者の方でも仕事がしやすくなる。

△下痢のない胃腸病

今一つ間違ひやすいのは、下痢がなければ胃腸病でないといふ早合點する事である。然るに下痢のない胃腸病の方が却て重症なのである。つまり病氣の起つた場所が上の方にあるので、下痢にまでゆかない中に中毒してしまふのである。直腸とか大腸などならば、直に下痢を起して毒物を排泄してしまふ事が出来るが、場所が隔つて居ると毒物が外に出るまでに時間がかかる。爲めにそれより先きに身體の方に吸収せられてしまふのです。下痢がないから胃腸病にあらずと早のみ込みをしないで熱が急に高くなつたりした場合には直に醫者に見せるやうにするがよい。風邪の熱だと思ふて油断して下痢が起つてから醫者に見せるのでは手おくれのする場合がある。

△四歳以下の幼児に海水浴は

却つて有害

此頃は避暑旅行に山や海のあたりへ出かける人が多いやうですが、海水浴の如きも萬人によいわけのものではない。幼少なる子供等には却て害がありはせぬかと思はれる。

海岸などは砂がやけて居て非常にあつち、さういふ處へ幼い子供をつれてゆくのはどうであらう。別墅でもある人は格別、間借りなどして狭い所に雑居するなどは考へ物でせう。海水浴は四歳以下の幼児には決してよくありません。そんな幼児が海濱につれてゆかれるのは、大人の犠牲に供せられるやうなものです。却つて病氣を設けにゆくやうな結果になる事があります。